



独立行政法人 和歌山病院
国立病院機構



〒644-0044 和歌山県日高郡美浜町和田1138
Tel 0738-22-3256 Fax 0738-23-3104
ホームページ <http://www.wakayama-hosp.jp/>

和歌山病院 ニュース

第59号

2020年1月発行

【当院の理念】

職員一同は、患者さんの権利と立場を尊重し、地域と密着した「安心と信頼をいただける病院」を目指します。

【基本方針】

- 一 国が担うべき政策医療である結核、重症心身障害、神経難病の専門病院として診療に力を注ぎます。
- 二 呼吸器疾患、神経系疾患、胸部・血管外科の専門病院として診療に力を注ぎます。
- 三 開放型・地域医療支援病院として地域医療の質の向上および地域連携の充実に貢献します。
- 四 臨床研究・臨床試験に積極的に取り組み、医療の質の向上に貢献します。

【患者の権利と義務】

◇患者さんの権利

1. 良質で公平な医療を受けられる権利があります。
2. 人格や価値観を尊重される権利があります。
3. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 治療法を選択できる権利があります。
5. 病気の診断・治療・予後などに関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができる権利があります。
6. 個人情報を守られる権利があります。
7. 貴方の診療記録の開示を求める権利があります。

◇患者さんの義務

1. ご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にお伝えください。
2. 検査・治療は説明をうけ、十分な理解と納得の上で受けてください。
3. 他の患者の治療や医療提供に支障を与えないように配慮してください。
4. 医療費の支払い請求を受けたときは、遅滞なくお支払いください。

※和歌山病院は、「患者の権利宣言」（リスボン宣言）を尊重します。



目 次

2. 新年のご挨拶 院長 南方 良章
3. 高血圧について知っていただきたいこと
内科部長 川邊 哲也
4. 防犯訓練を実施しました
庶務係長 古谷 崇
5. 健康フェアを開催しました
経営企画室長 九鬼 勝彦
6. クリスマスコンサート
患者サービス向上推進委員会
7. 医の門 vol.42
しびれについて
脳神経内科 河本 修
8. 外来診療担当表

新年のご挨拶

院長 南方良章

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は当院を御引立ていただき、誠にありがとうございました。

昨年には、地域医療構想に伴い、厚生労働省から、公立・公的病院の再検証要請対象医療機関が公表されました。厚生労働省は、あくまで機能分化・連携・ダウンサイジングなどの地域医療構想の議論を活発化させるためであり、決して再編統合を強いるものではないと説明しています。しかし、現実には風評被害が出始めている医療機関もあり、また、次は私的病院の評価検討という噂も耳にします。幸い、御坊医療圏の各病院は、いずれも再検証要請対象医療機関には該当しませんでした。地域医療構想の議論の進展が必要であることには疑いの余地はございません。地域医療の発展のため、医療圏内の病院の一つとして、その役割を十分果たしてまいりたいと考えております。

さて、院内では、昨年4月に新たに佐々木誠吾医師を常勤呼吸器内科医師としてお迎えし、呼吸器内科診療体制がさらに充実化されました。外科と内科が一体となった呼吸器センターにおいて、専門性の高い呼吸器疾患の診療提供が可能となっています。特に、呼吸器専門医3名を含む呼吸器内科医とともに、呼吸器外科専門医かつ乳腺専門医の太田文典外科医長、放射線診断専門医の諏訪和宏放射線科医長、さらには、薬剤師や看護師等を含めた呼吸器・乳腺の腫瘍性疾患に対するキャンサーボードは、ますます充実した内容となってきています。キャンサーボードでは腫瘍性疾患はもちろん、非腫瘍性の呼吸器疾患の症例検討もなされ、県内有数の高レベルの呼吸器疾患カンファレンスが行える状況になってきております。

近年導入した高精度の乳房撮影装置であるトモシンセシスを有効活用し、精度の高い乳がん検診や乳癌早期診断を行い、積極的な治療を行っています。さらに、医療圏内では唯一当院が保有する放射線治療システムにより、近隣病院のあらゆる悪性腫瘍の患者様に対する治療も提供しております。また、悪性腫瘍が進行した場合には、終末期に対する入院治療も積極的に受け入れております。これらに加え、テレビ会議システムを用いて、僻地診療所での呼吸器疾患患者の共同診察や指導といった遠隔診療も一部



で行っています。

学生や医師の教育、さらには臨床研究にも力を注いでいます。さいわい、当院で就学あるいは研修を希望される医学部学生（5年生、6年生）や初期研修医の数が、年々増加してきています。本年も引き続き医学生や研修医の教育・育成にも力を注いでまいりたいと思います。

一般診療に加え、これまで力を注いできた重症心身障害、神経難病、結核といったセーフティネット医療も着実に充実化させてきております。和歌山県神経難病ネットワークの基幹病院として、神経難病患者の受け入れやレスパイト入院も積極的に推進し、また、重症心身障害児（者）においても長期のみならず短期入院も受け入れ、在宅で介護される家族の負担軽減を軽減し、在宅での継続的なケアを可能とする援助も行っています。さらに、当院内に開設している和歌山県結核相談支援センターにおいて、医療関係者や市民の皆様からの様々な相談や問い合わせに対応するとともに、結核退院患者の情報共有を目的に、県内全保健所の保健師等が参加するDOTS会議を毎月当院にて開催し、県内の適切な結核診療の提供・指導に尽力いたしております。

和歌山病院は、これら専門的診療はもちろんのこと、地域医療支援病院として地域住民の健康を守るため、全力で貢献してまいります。しかしそれには、地域の皆様、医師会や病院・保健所を含む各医療関係者の方々、消防・教育関係・行政をはじめとする数多くの皆様方のご協力が不可欠でございます。

本年も和歌山病院は全力で頑張っておりまうので、皆様方のご協力、ご指導を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

高血圧について知っていただきたいこと

内科部長 川 邊 哲 也

高血圧は脳卒中や心臓疾患、腎臓病などの発症と関連し、これらは時に生命にかかわる事態を引き起こします。日本ではおよそ3500万人が高血圧と言われており、今後高齢化が進むに従い、その割合は増加していくことが考えられています。

高血圧は生活習慣病の1つとされ、肥満や運動不足、塩分の摂りすぎ、喫煙、睡眠の質の低下といった生活環境要因が高血圧の発症に関連があるといわれています。一方で、多くの高血圧の患者さんには血縁家族にも高血圧の方がいるといわれており、高血圧は遺伝的な要因とも関連が深い病気です。

最近、日本高血圧学会から「高血圧治療ガイドライン2019」が発表されました。5年ぶりに一部改訂された形で高血圧の診断や治療についての新しい指針がまとめられたものですが、高血圧の診断基準は従来通り140/90mmHg以上とする一方、降圧目標については75歳未満では130/80mmHg未満、75歳以上は140/90mmHg未満と、以前に比べ目標値が下げられました。これは厳格に降圧治療したほうが、これまでの治療よりも心臓、血管の病気の発症を抑えることができるという研究結果（エビデンス）に基づく変更です。他、糖尿病や腎臓病を合併している患者さんなどでは個々で降圧目標が異なる場合がありますが、重要なことは生活習慣の修正とともに、高血圧は放置すると怖い病気になりやすいという意識を医療者と一般の方双方が持つことだと思います。

現在では多くのご家庭が自動血圧計をお持ちですが、高血圧患者さんの中には、病院での血圧値と家庭での血圧値にかなり差がある方もいます。診察室での血圧が家庭（診察室外）血圧より極端に高い人は「白衣高血圧」と呼ばれ、比較的多くの患者さんに見受けられます。また時にはその逆（診察室血圧より家庭血圧の方が高い）の方もみられます。この現象を仮面高血圧といい、このタイプでは心臓や血管の病気をより合併しやすいという報告が多いため、仮面高血圧は注意すべき病態と考えられています。また、早朝起床時に血圧が異常に上昇する早朝高血圧と呼ばれる現象も、心臓、血管の病気の発症に深くかかわっていることが知られていま



す。このように家庭血圧は診察室だけでは知れない血圧の情報を教えてくれます。

家庭血圧は、適度な室温下で、椅子に座った状態で、少なくとも1～2分安静にしてから2回連続で測定し、その平均値を記録するのが標準的な測定方法です。朝に測る場合は起床して排尿後、朝食前の時間帯で、晩なら寝る前に測定します。ただし、人それぞれ生活リズムは異なりますし、仕事をされている方は忙しい朝に安静にして毎日血圧を測るのは難しいかもしれません。また、血圧を毎日測ることがストレスに感じる方や自分で測った血圧の値で不安に感じやすいような方もいます。前述したように家庭血圧値は高血圧治療の上で重要な情報ですが、患者さんの生活や精神状況に負担がかからない範囲で家庭血圧を測定してもらうことが大事と考えています。また、厚着の上からカフ（腕帯）を巻いたり、巻き方が緩すぎると測定値が不正確になるため注意しましょう。

血圧は常に一定ではなく、1日のうちでも様々な要因（運動、精神状態、ストレス、飲酒、喫煙、体感温度、睡眠、食事など）で変動します。そのため一度の測定で140/90mmHg以上だからと言って、すぐに高血圧と診断することは少なく、何回か血圧を測定して、可能であれば家庭血圧計を活用して、高血圧かどうかを判断します。ただし目安として上の血圧が180mmHg以上、もしくは下の血圧が110mmHg以上の場合は、早急に治療が必要な場合があります。

当院循環器内科では高血圧やその他生活習慣病の診療に力を入れ、適切な助言や治療を提供できるよう努めております。血圧が気になる方はお越しください。

防犯訓練を実施しました

庶務係長 古 谷 崇

さる令和元年11月22日（金）に防犯訓練を実施しました。訓練は万一の事態に備え対応力を高めることを目的に、御坊警察署及び公益財団法人日本防災通信協会和歌山県支部（以下、支部）よりご協力をいただき、平成28年度より毎年実施しています。

今年度は、署員の方が扮する刃物を持った不審者（犯人役）が3階北病棟に現れたとの想定で実施し、①看護師が不審者を発見、②病棟内の他の看護師へ連絡、③非常通報装置による通報及び現場対応、④他部署からの応援・現場対応について、各段階での流れ・対応方法について確認しました。

署員の方からは、「不審者かそうでないかの最初の判断が難しいが、刃物を出すまでは柔らかな対応で、不審者と分かれば迅速な通報、さすまたやストレッチャーを使い進路をふさぎながら、徐々に追いつめるところも良かった」と、全体的には良い評価をいただきましたが、「犯人との距離をもう少し保って、安全に警察官の到着までの時間稼ぎをして欲しい」との講評もいただきましたので、次回以降の訓練に活かし

ていきたいと思います。

その後、署員の方からさすまたの有効な使い方や護身術の講習を行っていただき、寛支部長より110番非常通報装置の活用法や事例の紹介をしていただきました。当院では病棟や事務室等にさすまたを備えていますが、実際に使用することはないため、今回は良い機会になったのではないかと思います。訓練後のアンケートでも「さすまたを使ってみて、思っていたよりも重くて、一人だと押さえ込むことは難しいと感じた」との感想が出ていました。110番非常通報装置の活用法等についても、装置のボタンが押せてないことがあることや、身の危険を感じるなど緊急通報を行うべき事案であって、通常の緊急通報を行うことが困難である場合に、非常通報装置を効果的に活用する必要がある等、色々と学ばせていただきました。

実際に起こらないことが一番ですが、万が一このような事案が起こっても対応できるように、今後も訓練を継続していきたいと思います。



健康フェアを開催しました

経営企画室長 九 鬼 勝 彦

12月4日(水) オークワロマンシティ御坊店にて、健康フェアを開催しました。当日は、今年一番の冷え込みで、朝から小雨がぱらつく中の開催となりました。

午前10時、南方院長の挨拶を皮切りに、身長、体重、血圧、体脂肪、酸素飽和度(SPO2)、骨定量検査、肺年齢測定などの検査や、薬剤師、管理栄養士、看護師による相談コーナー、乳がん自己チェックコーナー、COPD(慢性閉塞性肺疾患)のチェックなどを実施し、午後3時までの間に120名の来訪がありました。

天候の影響もあってか、例年に比べ来訪者は減少しましたが、今後も引き続き、ご来訪いただいた地域の皆様のご意見を参考に、御坊・美浜地域の皆さんが「自分の健康」に少しでも興味を持っていただける内容にし、開催していきたいと思ひます。

健康 フェア

12月4日 水
10:00~15:00

入場無料!

《場所》
オークワ ロマンシティ
御坊店

《測定コーナー》
身長、体重、血圧
体脂肪、酸素飽和度
肺年齢、握力、骨密度
乳がんチェック
物忘れチェック

《相談コーナー》
・ 栄養・薬
・ 禁煙・乳がん
・ 医療 等

【主催】 独立行政法人国立病院機構 和歌山病院
〒644-0044 和歌山県日高郡美浜町和田1138 TEL 0738(22)3256



クリスマスコンサート

患者サービス向上推進委員会

12月20日（金）13時30分より、職員によるクリスマスコンサートを2階北病棟、2階南病棟、3階北病棟を順番に回って行いました。トーンチャイムでアメーzing・グレース、ホワイトクリスマスを演奏し、合唱でジングルベル、きよしこの夜、パプリカを歌いました。特にパプリカはダンスもあり盛り上がりしました。



しびれについて

国立病院機構和歌山病院
脳神経内科

河 本 修



しびれを主訴に受診する患者は多く、日常診療でもしばしばみられる。しびれと言っても手をぶついたり足を正座してしびれるもの、痛みを伴うものなど様々ある。しびれを引き起こす原因となる部位は大きく分けて①大脳、脳幹、②脊髄、脊髄神経根、③末梢神経、④その他の4つに分類される。今回はその中でも比較的頻度の多い頸椎症、手根管症候群、ギラン・バレー症候群、糖尿病及び最近在宅でできる自己注射療法が認可された慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー（CIDP）について紹介する。

頸椎症では、脊髄が圧迫されて生じる頸椎症性脊髄症と、脊髄から枝分かれした神経が圧迫して障害される頸椎症性神経根症がある。脊髄が圧迫される原因として脊髄の前方にある後縦靱帯や後方にある黄色靱帯が硬化して圧迫されるものをそれぞれ後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症と呼ぶ。しびれが軽度であれば理学療法や鎮痛薬のみで対応するが、しびれが高度なものには外科的治療適応となり、最近では内視鏡的治療も行われる。

手根管症候群は、よく手を使う仕事の人にみられ、屈筋支帯で形成された手根管内部の正中神経が圧迫されて生じる。しびれや筋力低下が強い場合は外科的治療の適応となる。ただししびれの改善が乏しい場合もあるため、手術を行うべきかどうかは慎重に検討する必要がある。

ギラン・バレー症候群は一般的に2、3週間前に感冒や下痢等の感染症に罹患した際の抗体が末梢神経を攻撃して生じる疾患である。四肢筋力低下が主な症状であることが多いが、感覚神経も障害されるとしびれも合併する。抗体が減少すれば

末梢神経障害は改善するため、軽症であれば無治療で経過観察する場合も多いが、筋力低下が高度であったり呼吸筋麻痺を伴った場合には血漿交換療法、免疫グロブリンの静注療法（IVIg）を実施する。予後は一般的に良好とされているが、呼吸筋麻痺まで伴うと後遺症が残る場合もある。症状は徐々に進行するためギラン・バレー症候群を疑った際には呼吸筋麻痺の可能性を考慮しておく必要がある。

糖尿病に長期に罹患していると末梢神経障害が緩徐に進行し、しびれや振動覚・触覚等の感覚障害が生じる。一般的に四肢末梢から進行することが多く、手袋・靴下型の神経障害を呈することが多い。

末梢神経の脱髄が起こり末梢神経障害を起こす疾患で、そのうち原因不明のものをCIDPと呼ぶ。CIDPはギラン・バレー症候群と同様に免疫グロブリン療法や血漿交換療法以外に、ステロイドも有効とされている。ただしCIDPは増悪寛解を繰り返しながら徐々に進行していく場合が多く、長期に治療を継続が必要な症例がほとんどであるため、ステロイドの副作用についても対応が必要となる。

CIDPの中には上記治療を行っても改善しない場合には免疫抑制剤のシクロホスファミドを併用すると改善したとの報告がある。当院でもIVIg、ステロイドパルス、血漿交換療法のいずれも無効であった難治症例に対してシクロホスファミドパルス療法とIVIgを併用し改善した症例を経験しており、現在はシクロホスファミド内服とIVIgの併用にて症状は安定している。また、症状が長期に安定している患者には免疫グロブリンの皮下注射療法が今年承認された。現在当院でも8年以上症状が安定している患者に導入し、毎週自己にて皮下注射療法継続にて経過は良好である。

しびれは上記以外に多岐にわたる疾患の症状の1つである。しびれの性状・経過に加えて他の症状や検査結果、内服薬等も含めて鑑別を行い、治療にあたる必要がある。



和歌山病院 外来診療担当表

2020年1月1日

		月	火	水	木	金
外 科		—	岩橋 正尋	—	岩橋 正尋	—
		—	川嶋 沙代子／ 太田 文典 (乳腺・呼吸器外来)	—	川嶋 沙代子／ 太田 文典 (乳腺・呼吸器外来)	太田 文典 (乳腺・呼吸器外来)
呼吸器センター	初診	東 祐一郎	南方 良章	東 祐一郎	小野 英也	川邊 和美
		—	高倉 敏彰	佐々木 誠悟	—	奥田 有香
	再診	駿田 直俊	小野 英也	—	赤松 啓一郎	佐々木 誠悟
	専門外来 (午後)	—	—	睡眠外来 駿田(再診)	禁煙外来 赤松 啓一郎 (第2・4・5週)	睡眠外来 駿田(初診)
		—	—	COPD外来 担当医	—	—
		—	—	—	—	—
循環器内科		川邊 哲也	—	川邊 哲也	岡村 英夫	岡村 英夫
内 科		駿田 直俊	南方 良章	川邊 哲也	—	川邊 和美
脳神経内科	午前	—	—	河本 純子 (第2・4週)	—	河本 純子
		—	—	診察日は＊を参照	竹村 学 (初 診) 診察日は＊を参照	—
	物忘れ外来 (午前)	—	河本 修 (第2・4週予約のみ)	—	—	—
	午後	萬 翔子	—	竹村 学 (再診のみ) 診察日は＊を参照	竹村 学 (再診のみ) 診察日は＊を参照	—
				—	—	

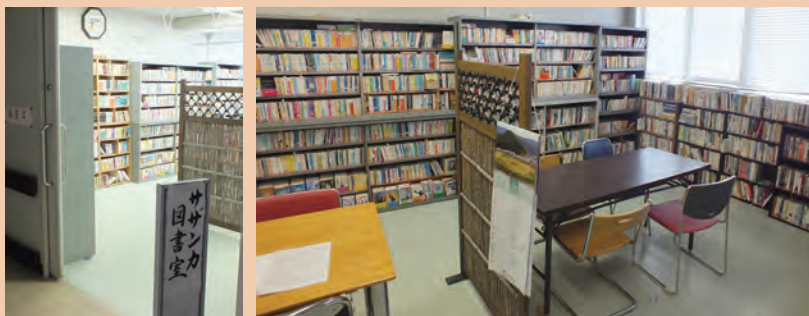
○受付時間 午前8:30～11:30

○再診については原則、予約制にしております。
(急患についてはこの限りではありません)

＊注意：脳神経内科 竹村医師の診察予定日
2020年

1月15日、16日 4月15日、16日 7月15日、16日
2月19日、20日 5月20日、21日 8月19日、20日
3月18日、19日 6月17日、18日 9月16日、17日

ボランティア募集！



例えば・・・外来案内、創作(フラワーアレンジメント・押し花等)、図書(読み聞かせ・貸出等)



独立行政法人国立病院機構和歌山病院

〒644-0044 和歌山県日高郡美浜町和田1138

広報委員会

<お問い合わせ>

TEL 0738-22-3256 (代表)

※夜間・休日は 0738-23-1506

FAX 0738-22-2008 (地域医療連携室)

<http://wakayama-hosp.jp/>